

42 東京大学生徒暴行並びに処分の儀内申

〔明治十六年十一月〕

書簡一通

十月廿九日

太政大臣 三條実美殿

文部卿 福岡孝弟

追啓孝弟儀病氣未全快不仕引籠罷在候旁以本文書取内申仕候  
間宜しく御聞取被仰付度奉存候也

(注記1)

内申仕候一昨廿七日東京大学卒業証書授与式ニ当り同学帰宿生  
徒凡三百人計右式場ニ出席不致候而他行致シ且沈醉之上其夕五  
時頃より帰来宿舍ノランプを打消シ処々へ石を投シ或ハ板塀を  
破壊シ等之乱妨を極メ候趣則大学総理始メ右鎮静ニ取計候へど  
も一時数多若輩之蜂起ニて制止難叶体ニ有之追々彼等宿舍ニ酔  
臥致候而相静り申候尔後勿論嚴敷取調へ候所何分一統ニ後悔謝  
罪トハ申出候へども却而主謀者を自訴せしむる等之運ヒニ至り  
がたく然ハ不残一平ニ放逐可致儀ニも候へども成るべく主従を  
分チ夫々退校退舎等之処分相付ケ申度儀ニ有之猶今日中嚴敷取  
調へ為致候也然ルニ右乱妨を志候ニ於て差タル事由も相見へ不  
申只帰宿舎廻り塀圍を新ニ嚴重ニ致候事等分不平を起シたるか  
本夕之式会ニ乗して右挙動ニ及候尤或ハ改進黨輩より密ニ煽動  
せし所有之儀も難計万一此情実有之候ハ、放逐等処分之上は必  
ス其色相顕れ候次第も可有之儀と相考へ申候勿論右処分ニ於て  
ハ決而是等ニ不相構遂ニ一平放逐等之儀ニも可及候間猶此辺御  
聞置被仰付度候且委詳之儀は追而大学総理より稟申之上更ニ内  
申可仕と存候也

客月二十七日東京大学ニ於テ諸生暴行之義ニ付不取敢一応申上  
置候処追々相聞候筋且処分方ノ次第モ有之尚又内申ニ及候右ハ  
当朝諸生共日暮山へ参リ兼テ内密ノ申合モ  
致シ居候趣午後第四時半頃一同酔  
帰シ中ニハ大酩酊ノ者モ有之下駄ノマ、ニテ廊下ヲ馳セ杖ヲ以  
テ(ランプ)ヲ壊リ夫レヨリ儀式宴会迹ニ入り酒ナト奪ヒ返リ  
追々暴行相募リ夜ニ入り齊ク寄宿取締詰処并会食堂等狼藉シ  
(ガラス)ヲハ散々打破リ寄宿舎用心ノ為メ嚴重ニ致シ置タル  
板塀ヲ殊ニ甚敷破壊シ往々石或ハ棒ヲ以テ寄宿舎柵矢来及渡リ  
廊下左右ノ羽目等ヲ破リ門番所ヲ毀リ表門ノランプヲ打落シ殆  
ント火災ヲ生セントセシモ幸ニ此ニ至ラスシテ止ム登時学中総  
理幹事部長其他僅カナル人数ニ有之暴行諸生衆多ノ義一時蜂起  
ノ勢ニテ支へ兼候場合騒擾ノ声外ニ洩レ警部巡查等鎮撫方申来  
リタル哉ニ候へ共其力ヲ借ラスシテ漸ク十一時比鎮定ニ帰シ候  
其原因ニ至リテハ種々風聞モ有之候へ共取ルニ足ラザル筋モ有  
之但大要看認候処ハ近来塀二重ニ致  
シ有之廊下一々羽目ヲ  
致シ有之等ノ敵ナルヲ以  
テ束縛ノ甚シキトシ又ハ嚮ニ卒業後直チニ学士ノ称ヲ与フルノ  
穩当ナラサルヲ以テ改メテ得業士トナセシヲ自己向來ノ直チニ  
学士トナルヲ得サルヲ以テ不平トシ就テハ今日ノ新学士ヲ妬ミ

却テ無氣無力トナシ是二事原因最モ多二居ル或ハ賄方食事等ニ於ケルノ不平

ニ出テ或ハ従前卒業式場夜ヲ以テセシヲ今回改メテ昼トナスヨ

リ多少ノ自由ヲ失セシヲ不快ナリトシ又一ニハ改進黨早稲田專

門学校ノ手ヨリ陰ニ之ヲ教唆セシニ由ルトシ是レ未タ確知ス可カラスト雖モ以上

瑣末ノ事ニ過キササルモ到底此他ニハ出テサルヘシ扱翌日ニ至リ

総理幹事其他ヨリ取調ニカ、リ候処何分原因等不申立固ヨリ主

謀者ヲモ自白セス唯一同結合酒興ニ乗セシトノミ申張候然ルニ

諸生右等ノ暴行ヲ為スニ至テハ容易ノ件ニテモ無之万一寛假ニ

付スルカ如キアラハ独リ大学内部ノミナラス他ノ諸学校地方ヘ

モ影響不少候ニ付嚴重処分可致且一日モ速ナルヲ要スル義ハ勿

論ニ候ヘ共右暴行ニモ至ルノ企テニ於テ首従重軽ノ別アルハ自

う相見ヘ候ニ付単ニ共犯ヲ以テ処シ難キ旨ヲモ当該者申立候間

一々審問ヲ逐ケ首従ヲ糺シ処分スル事ニ致シ候就テハ二百六七

十人ノ多キ不得已シテ稍日子ヲ費ヤサ、ルヲ得ス即チ本学ニ於

テ審問中殆ント徹夜ニ及ヒ居候右ノ次第二候ヘ共今二三日ヲ出

テス完結スヘク其上速ニ嚴重ノ処分可為致見込ニ候且暴行ノ徒

ハ法理文三学部及其予備門ノ寄宿生ニシテ就中理学部ハ寡少ナ

リ他ノ医学部ニ於テハ本科予科トモ絶テ無之候尤多クハ学力ノ

中等ニ居ルモノニテ有之候此段更ニ内申候也

明治十六年十一月一日

文部卿 福岡孝弟

三條太政大臣殿

東京大学生徒暴行之儀ニ付別紙文部卿内申書供回覽候也

明治十六年十一月二日

内閣書記官

太政大臣 三條實美殿

左大臣 熾仁親王殿

参議 大木喬任殿

参議 山縣有朋殿

参議 伊藤博文殿

参議 西郷従道殿

参議 井上馨殿

参議 山田顯義殿

参議 松方正義殿

参議 大山巖殿

参議 川村純義殿

参議 福岡孝弟殿

参議 佐々木高行殿

客月二十七日大学ニ於テ諸生暴行之義ニ付右挙動之始末并処分  
方等再応内申ニ及置候処尔来夫々審糺ヲ逐ケ先以学生々徒百四  
十五名同時ニ退学申付候段大学総理加藤弘之届出候条此段尚又  
内申致候也

明治十六年十一月五日

文部卿 福岡孝弟

三條太政大臣殿

文部卿上申大学生徒暴行ニ付退学申付候件供回覽候也

明治十六年十一月五日

内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣 熾仁親王殿

参議 大木喬任殿

参議 山縣有朋殿

参議 伊藤博文殿

参議 西郷従道殿

参議 井上 馨殿

⑨参議 山田顯義殿

⑩参議 松方正義殿

⑪参議 大山 巖殿

⑫参議 川村純義殿

参議 福岡孝弟殿

⑬参議 佐々木高行殿

東京大学学生生徒処分之儀内稟

東京大学学生生徒暴行ノ始末及其処分方ニ付テハ本月一日附ヲ以テ内申致シ尚同月五日附ヲ以テ右学生生徒百四拾余名ハ東京大学ニ於テ退学申付候旨内申ニ及置候儀ニ有之然ルニ右退学ヲ命シ候学生生徒中ニモ猶其所行ノ軽重或ハ首従ノ差別モ可有之存候ニ付精密査了ノ上其重キ著ヲシテ更ニ本月二日附当省第十八号達ニ掲クル所ヲ適用処分致シ候見込ニテ百方考査為致候得共其事タル素ヨリ有心熟計ノ所行ニテハ無之全ク一時暴発ノ挙動ニ属シ判然首謀者ト認ム可キ程ノ者モ無之遂ニ其軽重ヲ分別候儀ハ難相成有様ニ有之就テハ已ムヲ得ズ其首従ヲモ論ゼズ一

切ノ処分致シ候ヨリ外手段モ無之尤一切ノ処分致シ候上ハ寧口輕キニ從テ之ヲ処断スルモ可然儀ニ候得共凡ソ事一時ニ偏シ目前ノ得失ノミヲ以テ決ス可ラザルハ論ヲ俟タズ必ズヤ前後ノ影響如何ニ留意セザル可ラサル儀ニ有之今若シ第十八号達ノ如キ嚴肅ノ処分ヲ致サズシテ之ヲ措ク時ハ其影響他ノ官公私立一般ノ学校ニ波及シ所謂一犬吠虚万犬吠声ノ狀況ニ可相成哉ノ掛念モ有之果シテ如此相成候ハ、自今全国ノ学校ニ於テ或ハ其生徒ヲ檢束シ能ハザルニ馴致スルノ恐レモ有之故寧口重ク之ヲ処断シテ嚴シク懲戒ヲ加ヘ候得ハ却テ将来ノ好果トモ可相成存候ニ付一切ニ其重キニ從ヒ当省第十八号達ニ照シ今般退学ヲ命セシ学生生徒ハ当省直轄官立学校及府県公私立ノ学校ニ入学スルヲ禁シ候尤該学学生生徒今回ノ挙動タル容易之儀ニ無之ハ勿論ニ候得共畢竟ハ一時ノ客氣ニ乘シ候モノニシテ固ヨリ深ク邪慝ノ意ニ起リ候情狀ニハ無之候間右処分ノ後ハ尚篤ト其举止ヲ探査候上他日果シテ謹慎悔悟ノ実効有之ト認メ候者ハ或ハ再入学ヲ許シ候儀モ可有之様致シ候見込ニ有之候右退学学生生徒一切ニ入学禁止ヲ命シ候次第ヲ具シ猶又及内稟候也

明治十六年十一月十三日

文部卿 福岡孝弟

文部卿内申

東京大学々学生生徒処分之事

右供回覽候也

十一月十四日

内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

伊藤参議殿

⑨西郷参議殿

井上参議殿

⑨山田参議殿

⑨松方参議殿

⑨大山参議殿

⑨川村参議殿

⑨佐々木参議殿

(注記1)

「八」(簿冊内件名番号)

〔自明治十五年至同十八年  
公文別録 文部省  
2A.1, ⑨29〕